

### 健康診断実施状況

	28年度	27年度	増減
職域	31,459	32,265	△ 806
地域	5,470	5,525	△ 55
計	36,929	37,790	△ 861

平成28年度の受診状況は、861名の減少となった。特に職域では前年度より806名の減少がある。一般健康診断の減少に伴い、特殊健康診断の受診者も減少した。

### 平成28年度総合判定別内訳（職域）

	男	女	計
異常なし	3,899	1,352	5,251
有所見放置可	3,041	1,300	4,341
要観察	5,965	3,501	9,466
要精検	4,160	1,771	5,931
要治療	151	16	167
要継続治療	4,294	2,009	6,303
計	21,510	9,949	31,459

### がん検診実施状況

	28年度	27年度	増減
胃がん	6,279	7,474	△ 1,195
肺がん・結核 （胸部X線）	26,167	26,438	△ 271
大腸がん	10,961	10,097	864
乳がん	694	533	161
子宮がん	522	468	54
前立腺がん	2,096	2,243	△ 147

がん検診では、特に胃がん検診の受診者が目立って減少している。富山県の胃がん受診率は比較的高い水準にあるものの減少傾向にあり、内視鏡検査の導入を含め胃がん検診の受診率の維持・増加への対策が今後の課題と思われる。

### 特殊健康診断実施状況

	28年度	27年度	増減
じん肺健診	404	532	△ 128
有機溶剤健診	3,152	3,602	△ 450
鉛 健診	210	248	△ 38
電離放射線健診	300	305	△ 5
特定化学物質等健診	3,048	3,311	△ 263
騒音健診	149	192	△ 43
振動健診	831	901	△ 70
VDT 健診	1,307	1,704	△ 397

### 尿中代謝物検査実施状況

代謝物名	溶剤・物質名	28年度	27年度	増減
馬尿酸	トルエン	771	791	△ 20
メチル馬尿酸	キシレン	508	577	△ 69
2,5-ハキサジノール	ホルムアルデヒド	290	269	21
N-メチルホルムアミド	NNジメチルホルムアミド	366	331	35
総三塩化物	トリクロロエチレン	34	33	1
	テトラクロロエチレン	0	4	△ 4
マンデル酸	スチレン	125	115	10
	イソブチレン	272	173	99

(注) 1.1.1-トリクロロエタンの実施はありません。

特殊健康診断は、近年特定化学物質になる溶剤や物質が増え、対象者が増加傾向にある中で、減少は、特殊健康診断実施対象の企業の従業員の減少若しくは物質・溶剤の見直しが行われてきているものと思われる。

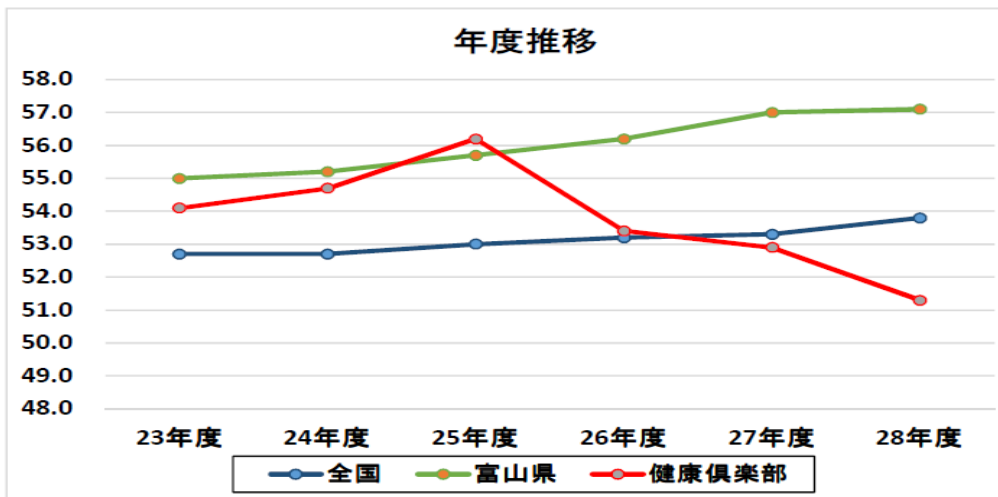
### ストレスチェック検査実施状況

	28年度	27年度	増減
ストレスチェック	3,746	—	—

平成28年度から本格的に始まったストレス検査は、3,746名であった。

定期健康診断項目別有所見率（％）（職域）

	北陸支部 (28年度)	北陸支部 (27年度)	富山県 (28年度)	全国調査結果 (28年度)
聴力1000Hz	3.1	2.3		3.6
聴力4000Hz	9.4	9.2		7.4
胸部X線検査	5.1	4.1		4.2
喀痰検査	0.0	0.0		1.8
血圧検査	15.0	13.4		15.4
貧血検査	9.3	9.6		7.8
肝機能検査	15.4	16.0		15.0
脂質検査	35.2	34.9		32.2
血糖検査	10.8	10.1		11.0
尿検査（糖）	3.3	3.0		2.7
尿検査（蛋白）	2.9	2.2		4.6
心電図検査	5.8	5.6		9.9
有所見の割合	51.3	52.9	57.1	53.8



	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
全国	52.7	52.7	53.0	53.2	53.3	53.8
富山県	55.0	55.2	55.7	56.2	57.0	57.1
健康倶楽部	54.1	54.7	56.2	53.4	52.9	51.3

有所見のあった人数の割合は、全国および富山県は年々増加しているが、健康倶楽部では平成25年をピークに年々減少してきている。個々の検査の所見率では上がっているものが多いが、全体の人数では減ってきている。

脂質検査（中性脂肪）や糖尿病検査（血糖検査）は、特に飲食物や飲食時間の影響を受けるため、空腹時での採血が望ましい。

胸部X線検査が、近年有所見率が上昇しているのは、間接フィルムからデジタル撮影に替わったためと思われる。平成28年度から健康倶楽部では全てデジタル撮影に替わっているため、有所見率の変化が無くなることを期待する。

心電図検査は、全国と比べると毎年4%位低い。富山県は全国よりも毎年高いが健康倶楽部が低いのは、対象となる受診者によるものか、あるいは心電図判定医の影響によるものか今後検討を要する。

メタボリックシンドローム判定別  
「40歳～74歳」（職域）

28年度	合計	基準 該当者数	基準 該当者率	予備群 該当者数	予備群 該当者率	非該当者 数	非該当者 率	判定不能 者数	判定不能 者率
男	8,999	1,832	20.4%	1,510	16.8%	5,589	62.1%	68	0.8%
女	4,190	197	4.7%	223	5.3%	3,748	89.5%	22	0.5%
計	13,189	2,029	15.4%	1,733	13.1%	9,337	70.8%	90	0.7%

27年度	合計	基準 該当者数	基準 該当者率	予備群 該当者数	予備群 該当者率	非該当者 数	非該当者 率	判定不能 者数	判定不能 者率
男	9,133	1,817	19.9%	1,521	16.7%	5,674	62.1%	121	1.3%
女	4,533	249	5.5%	226	5.0%	4,010	88.5%	48	1.1%
計	13,666	2,066	15.1%	1,747	12.8%	9,684	70.9%	169	1.2%

メタボリックシンドローム判定別  
「40歳～74歳」（地域）

28年度	合計	基準 該当者数	基準 該当者率	予備群 該当者数	予備群 該当者率	非該当者 数	非該当者 率	判定不能 者数	判定不能 者率
男	1,249	345	27.6%	215	17.2%	689	55.2%	0	0.0%
女	3,316	255	7.7%	182	5.5%	2,879	86.8%	0	0.0%
計	4,565	600	13.1%	397	8.7%	3,568	78.2%	0	0.0%

27年度	合計	基準 該当者数	基準 該当者率	予備群 該当者数	予備群 該当者率	非該当者 数	非該当者 率	判定不能 者数	判定不能 者率
男	1,296	369	28.5%	214	16.5%	713	55.0%	0	0.0%
女	3,359	250	7.4%	193	5.7%	2,916	86.8%	0	0.0%
計	4,655	619	13.3%	407	8.7%	3,629	78.0%	0	0.0%

階層化別（保健指導レベル）  
「40歳～74歳」（職域）

28年度	合計	積極的 支援	積極的 支援率	動機付け 支援	動機付け 支援率	情報提供	情報提供 率	判定不能 者数	判定不能 者率
男	8,999	1,703	18.9%	793	8.8%	6,453	71.7%	50	0.6%
女	4,190	134	3.2%	237	5.7%	3,799	90.7%	20	0.5%
計	13,189	1,837	13.9%	1,030	7.8%	10,252	77.7%	70	0.5%

27年度	合計	積極的 支援	積極的 支援率	動機付け 支援	動機付け 支援率	情報提供	情報提供 率	判定不能 者数	判定不能 者率
男	9,133	1,731	19.0%	753	8.2%	6,586	72.1%	63	0.7%
女	4,533	148	3.3%	230	5.1%	4,102	90.5%	53	1.2%
計	13,666	1,879	13.7%	983	7.2%	10,688	78.2%	116	0.8%

階層化別（保健指導レベル）  
「40歳～74歳」（地域）

28年度	合計	積極的支援	積極的支援率	動機付け支援	動機付け支援率	情報提供	情報提供率	判定不能者数	判定不能者率
男	1,249	146	11.7%	147	11.8%	956	76.5%	0	0.0%
女	3,316	98	3.0%	211	6.4%	3,007	90.7%	0	0.0%
計	4,565	244	5.3%	358	7.8%	3,963	86.8%	0	0.0%

27年度	合計	積極的支援	積極的支援率	動機付け支援	動機付け支援率	情報提供	情報提供率	判定不能者数	判定不能者率
男	1,296	163	12.6%	153	11.8%	980	75.6%	0	0.0%
女	3,359	102	3.0%	222	6.6%	3,035	90.4%	0	0.0%
計	4,655	265	5.7%	375	8.1%	4,015	86.3%	0	0.0%

メタボリックシンドローム判定および階層化（保健指導レベル）別の職域では、母体数の減少でパーセントの変動があると思われる。地域では、職域程の母体数が無いため、わずかな人数の増減でパーセントの変動がある。職域でのメタボリックシンドロームの基準・予備群該当者、階層化の積極的・動機付け支援の該当者は、近年変動が少ないように見受けられる。